

『その方が来ると…！』ヨハネ16:8-15

16:8 それがきたら、罪と義とさばきとについて、世の人の目を開くであろう。

16:9 罪について言ったのは、彼らがわたしを信じないからである。

16:10 義について言ったのは、わたしが父のみもとに行き、あなたがたは、もはやわたしを見なくなるからである。

16:11 さばきについて言ったのは、この世の君がさばかれるからである。

16:12 わたしには、あなたがたに言うべきことがまだ多くあるが、あなたがたは今はそれに堪えられない。

16:13 けれども真理の御靈が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。それは自分から語るのでなく、その聞くところを語り、きたるべき事をおながたに知らせるであろう。

16:14 御靈はわたしに栄光を得させるであろう。わたしのものを受け、それをあなたがたに知らせるからである。

16:15 父がお持ちになっているものはみな、わたしのものである。御靈はわたしのものを受け、それをあなたがたに知らせるのだと、わたしが言ったのは、そのためである。

●序論

聖書の13章から始まるイエスさまの言葉を、イエスさまの告別メッセージということがあります。そして先週は「そのすべてが神の恵みであり、最善である」とイエスさまはご存じであった…ということに触れました。

「なぜ今？」「どうしてこんなことに？」という理由は、わたしたちにはわからないことはばかりです。でも神さまを信じつながるとき、わたしたちが今受け入れきれないすべてのこと、神さまの「最善がある」ということを教えていただいているように思います。

16:12-13 わたしには、あなたがたに言うべきことがまだ多くあるが、あなたがたは今はそれに堪えられない。 けれども真理の御靈が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。

●本論

I. あらゆる真理に導く

:12 わたしには、あなたがたに言うべきことがまだ多くあるが、あなたがたは今はそれに堪えられない。

このイエスさまのことばには、わたしたちへの深い思いやりが込められています。

弟子たちは、このとき、主がご自分の死を予告されたので、彼らは恐れ、混乱し、悲しみに満たされました。 (16:6)。

主イエスは、そのような彼らの弱さを責めるのではなく、むしろ「今は耐えられな

い」と、彼らの限界を認め、受け止め、なおも愛しておられたのです。

それは決してあきらめではありません。

イエス様は、彼らを真理の理解へ導いてくれる「助け主」を「真理の御靈」として紹介しています。

16:13 けれども真理の御靈が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。それは自分から語るのではなく、その聞くところを語り、きたるべき事をあなたがたに知らせるであろう。

真理の御靈がくる” 最善の時がある”、その時が、わたしたちをあらゆる真理に” 導いてくださるとき” なのだと言われます。

神は私たちの靈的な成熟、心の準備、時の整いを見極めて、最善のときに、最善の方法でご自身を現してくださいとお方です。

II. 罪と義と裁きを示す

16:8 (新共同訳) その方が来れば、罪について、義について、また、裁きについて、世の誤りを明らかにする。

口語訳では、「世の人の誤りを明らかにする」と紹介しました。

①まず「罪について」

「罪」についてイエスさまは、「彼らがわたしを信じないこと」と示されています。

聖書は、歴史を覆う目に見えるさまざまな悲しみや苦しみ争いなどのすべての根っこに、まことの神さまに背を向けて自分中心で生きるありさまがあると言います。

結果、そこに争いが悲しみが生まれると。

そんなわたしたちのために、神さまはひとり子イエス・キリストをお遣わしになり、その罪の代価をその命をもって払ってもまで救いの手をのべ、そして愛の関係へと招いて下さっているのです。

それを無視するありさま、信じないことをイエスさまは罪と呼びます。
この罪について鈍いわたしたちに、聖靈は目を開いてくださいます。

②義について

16:10 義についてと言ったのは、わたしが父のみもとに行き、あなたがたは、もはやわたしを見なくなるからである。

ここでのポイントは、「神さまの正義」は私たちの方法とは異なる。だからわからない。そこにいる弟子たちにさえ「まだ堪えられない、受け入れられない」ことでした。

しかし、それは実は、愛に満ち、祝福に満ちていると言うことです。

あのイエス様の、そばにいて生活し、教えられていた愛弟子たちでさえ、神さまの

方法である、イエス様の十字架と復活とそして昇天を理解できませんでした。

しかし、事実そのすべてによって、神さまは私たちの救いを完成された。それが神さまの方法、神の義なのです。

★十字架についての知識はこうです。

「キリストは罪人の罪を引き取り、罪人はキリストの義を受け取ることができる」。そして救われるのです。

ですから、私たちは安心して、神さまに義と認められている…言うことができます。

「真理の御靈」は、その神の義に対して私たちの目を開いて下さり、またそれを心から体験できるように、味わうことができるようにして下さるのです。

③「さばき」について

16:11 さばきについてと言ったのは、この世の君がさばかれるからである。

さばかれたのは、「この世の君」と表現される、サタンです。

罪なきイエス様は、死をも打ち破ってよみがえられたのです。そして、はっきりと死とサタンに対する勝利を示されました。

サタンの力は打ち破られ、すべてこのイエスを信じる人はだれも、サタンに罪を告発されることなくなったのです。義とされる。それがここでいう「裁き」です。

聖靈は、私たちの目を開き、このイエス・キリストそのお方をお示しになります。

「罪」をはっきりと示し、神さまの愛と赦し方法、「神の義」を示します。そしてあなたを責め立てるサタンの偽りへの「裁き」を示してくれるのであります。

すぐに「ああ、わかる！」とならないかもしれません。それが人の姿でした。目の前にイエスさまの十字架を見ても復活を知っても、実際、人も弟子たちもそうでした。

けれども、「この方」つまり、「真理の御靈」がくるとき目が開かれるのです。

Ⅲ. キリストをはっきり示す

このあと、弟子たちはイエスさまを直視できなくなりました。

まさに「堪えることができない」イエスさまの十字架の現実に、背を向けて逃げ出してしまったからです。自分の持っているすべてが打ち壊される経験をしたのです。

だからこそ、ここではイエスさまは、「今は語らない」としたのです。

しかし同時に、「その方、すなわち、真理の靈が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる」と、告げておいたのです。そしてこう語りました。

16:14 御靈はわたしに栄光を得させるであろう。わたしのものを受け、それをあなたがたに知らせるからである。

御靈、つまり聖靈、真理の御靈は、イエスさまを示し、イエスさまの眞實に、わたしたちの目と心を開いてくださるというのです。

だから、”聖靈が来るとき…！”、それまで理解できなかった十字架の意味、主の愛の深さ、赦しの豊かさ、復活の勝利が、光のように心の中に注がれるのです。

実際に使徒行伝2章をご覧になるとわかります。

その日、聖靈に満たされた弟子たちは、イエスさまを十字架につけた町、そして人々に向かい、イエス・キリストを指し示して大胆にメッセージしました。

使徒2:36 だから、イスラエルの全家は、この事をしかと知っておくがよい。

あなたがたが十字架につけたこのイエスを、神は、主またキリストとしてお立てになったのである」。

まさにそれを聞いた人たちにも聖靈は働き、彼らの心に迫りを与えたのです。

使徒2:37 人々はこれを聞いて、強く心を刺され、ペテロやほかの使徒たちに、「兄弟たちよ、わたしたちは、どうしたらよいのでしょうか」と言った。

聖靈は、目を開く方なのです。

●さいごに

私たちの信仰生活にも、「今は耐えられない」現実もある。思い通りにならない人生の出来事、突然の悲しみ、病、失敗、孤独…。

そのとき、神は導いてくださっています。

「:13 けれども真理の御靈が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。」とある通りです。

語られていることは、いつでもイエスさまを主として示します。

…それは自分から語るのではなく、その聞くところを語り、きたるべき事をあなたがたに知らせるであろう。」

もう一度言います。聖靈は今も、わたしたちを導くお方です。

この方は、イエスが歩まれた道を照らし、十字架の意味を明らかにし、復活の希望を示し、そして人生の中に、神さまにある本物、真理を形作ってくださる方です。